

令和6年度 市川市献血推進協議会 会議録

令和6年7月31日（水）午後2時～午後3時

市川市役所第1庁舎 6階 理事者控室

【出席者】

大塚委員（会長）、青野委員（副会長）、若林委員、相浦委員、水野委員、渡辺委員、高田委員、高橋（正）委員、藤原委員、山本委員、高橋（ひ）委員、石井委員、松戸委員、吉村委員、横山委員

（事務局）

市川市保健部（保健医療課）

千葉県赤十字血液センター

【会議次第】

1. 開会
2. 議題
 - （1）令和5年度 献血推進事業報告について
 - （2）令和5年度 決算報告について
 - （3）令和6年度 献血推進事業計画及び進捗状況について
 - （4）令和6年度 予算（案）について
3. その他
 - （1）赤十字血液センター事業について
4. 閉会

【開会】

【大塚会長】

市川市が主催する審議会等については、市川市審議会等の会議の公開に関する指針の第6条に基づいて、原則公開となっております。本審議会の案件については、個人に関する情報等の非公開情報部分はないため、本日の審議会は公開としますが、よろしいでしょうか。

【委員】

異議なし

【大塚会長】

それでは「会議の公開について」承認いただきましたので、本日は公開といたします。傍聴希望者はおりますでしょうか。

【事務局】

いません。

【大塚会長】

傍聴者はおられませんので、このまま会議に入りたいと思います。

議題(1)令和5年度 献血推進事業報告について

(資料1「令和5年度 献血推進事業報告」により説明)

【事務局】

(1)主体別の目標及び実績について

市主体の実施については、市役所第1庁舎、第2庁舎、行徳支所、クリーンセンター、消防局などにおいて、延べ12回実施した。その結果、1本200mlを基準とした換算本数では1,347本の目標数に対し、実績は879本で、達成率は65.3%となっています。血液センター主体の実施については、換算本数では9,232本の目標数に対し、4,825本の実績で、達成率は52.3%となりました。市全体では53.9%の達成率となっています。

(2)献血実績(区分別)について

各区分における会場1回あたりの採血者数は、市主体が約37人、血液センター主体の実施回数は延べ77回で、各会場1回あたりの採血者数は学校が一番多く54人で、次に駅前約43人となっており、血液センター主体全体の1回あたりの採血者数は約31人となりました。その結果、市全体における1つの会場での採血者数は、約32人となっています。

受付後の問診等により、体調不良(ヘモグロビン濃度の不足)により採血ができなかった不適者数は全体で430人、不適者率は12.9%でした。

(3)「献血実績の推移」

献血者数と換算本数の直近5年間の実績等の推移について、令和5年度の献血者数は、前年度に比べて234人増、換算本数455本増となりました。

(4)「令和5年度 市町村別献血状況」

令和5年度における千葉県内各市町村の目標献血者数に対する達成率を高い順に並べたものになります。

市川市の実績は、表内の太枠に囲まれた部分で、献血者数は2,915人となり県内6位だが、目標に対する達成率が54%で、達成率順では県内54市町村の中で49位となっています。

(5)「令和5年度 献血実績(職業別)」

職業別の献血者数を示したものととなります。

職業別については、市川市の立地による住民層のほとんどが会社員等となっているため市川市では会社員が1,663人、構成比率57%と最も多くなっています。

(6)「令和5年度 献血実績(年代別)」

年代別の献血者数を示したものととなります。

50代の献血者が最も多く933人(構成比で32%)で、最も少ない年代は10代の225人(構成比で7.7%)となり、千葉県全体の比率とはほぼ同様となっています。

(7)「令和5年度 献血の普及に関する主な取り組み」

市の施設で行う献血推進活動として、市広報や、公式 Web サイトへの掲載の他、基本的には、市職員が対象となることから、献血実施の際の庁舎内へのポスター掲示や庁内アナウンスによる周知、職員向けのメール配信、各部署への呼びかけなどを行っております。また、市民の方への広報活動としては、市公式 LINE や Facebook などの SNS 等を活用し、広報活動を行っております。

議題(2)令和5年度 決算報告について

(資料1「令和5年度 決算報告」により説明)

【事務局】

歳入については、前年度繰越金14,148円、市川市負担金99,000円の合計113,148円で、歳出については、報償費は啓発品の購入費98,956円、需用費消耗品費は、啓発用展示用物品の購入費として1,100円、役務費は通知文書発送代として4,144円、代金振込手数料として880円の合計105,080円となりました。

また、歳入との差額8,068円は、次年度繰越金となります。

【大塚会長】

ご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

【委員】

なし

【大塚会長】

それでは「令和5年度決算」については承認されました。

議題(3) 令和6年度 献血推進事業計画及び進捗状況について

(資料1「令和6年度献血推進事業計画及び進捗状況」により説明)

【事務局】

(1) 主体別の目標及び進捗状況

実績については、令和6年度4月から6月までの実施状況を反映したものととなります。市主体の換算本数の目標は1,153本で、6月末時点での実績は378本のため、達成率は32.8%となります。

血液センター主体の換算本数の目標は9,402本で、6月末時点での実績は1,210本のため、達成率は12.9%となります。

全体では、換算本数の目標数が10,555本に対し、実績は1,588本で、15.0%の達成率となっております。

(2) 市主体献血実施計画(案)

市主体となる献血の今後の予定は、表のとおりです。

議題(4) 令和6年度 予算(案)について

(資料1「令和6年度 予算(案)」により説明)

【事務局】

歳入について、市からの負担金が99,000円、前年度繰越金が8,000円により、歳入合計107,000円を見込んでおります。

歳出は、報償費として啓発品の購入費99,000円、需用費、消耗品費として事務用品の購入費2,000円、役務費、通信運搬費として通知等の発送代金5,000円・手数料1,000円の合計107,000円を見込んでおります。

令和6年度の啓発品としては、献血キャラクターのけんけつちゃんと市制施行90周年を記念したロゴマークを使用したデザインの不織布バッグの購入を予定しております。

【大塚会長】

ご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

【石井委員】

令和5年度決算報告では、次年度繰越金は8,068円となっているが、6年度の予算では予算額の端数を切り捨てている理由はあるのでしょうか。

【事務局】

行政の予算計上の表記に準じています。

【山本委員】

郵便料等色々なものが値上げしている中で、消耗品費の削減や、通信運搬費が特に約半分に減っているが、対応可能なのでしょうか。

【事務局】

市からの負担金はなるべく啓発品に使用したいため、消耗品費の削減については、既存のものをなるべく使うこと、通信運搬費の削減については、通知方法を郵便だけでなくメールを活用することで省くことができるため、このような計上としております。

【大塚会長】

他にご質問はございますか。

【委員】

なし

【大塚会長】

それでは「令和6年度予算(案)」を承認いたします。

【大塚会長】

令和6年度の啓発品について、購入予定の啓発品の不織布バッグとはどのようなものでしょうか。

【事務局】

献血キャラクターのけんけつちゃんと市制施行 90 周年記念ロゴマークを使用したデザインの不織布バッグの購入を予定しております。(デザイン案を提示)

【大塚会長】

啓発品の取り扱いについては事務局に一任いたします。

その他 赤十字血液センター事業について

【赤十字血液センター】

(「千葉県血液センター資料1 千葉県の供給・献血状況」により説明)

令和5年度、千葉県では23万6000人を超える方に献血ご協力いただきました。しかし、10代から30代にかけての若い方のご協力が減っておりますので、血液センターでも対策を長期的に考えております。まずは献血を知っていただくため「献血セミナー」の開催をお願いできないかということを進めております。これは献血にご協力いただける16歳以上の方だけではなく、これから献血ができる、小学生や中学生にも献血の必要性を知っていただくものです。

献血バスの稼働については、バス1台につき約50人、400ミリリットル献血は45人、200ミリリットルの献血は2人、これだけのご協力をお願いしたい状況となっております。

(「千葉県血液センター資料2 令和5年度市川市における献血実績」により説明)

2年前と比べますとコロナの影響が落ち着いてきたということで、一昨年度より昨年度の方が献血のご協力が増えています。献血の目標人数については、市川市と赤十字血液センターで力を合わせて、各団体の皆さまにお力をお貸しいただきながらお1人でも多くということで日々励んでいきたいと思っております。

献血会場でのマスク着用については、医療機関と同様に着用をお願いをしております。ただ、今はマスクをしていない方が非常に多いので、献血会場にてマスクをご用意しております。マスクをしていない場合はスタッフにお声掛けいただき、マスクを着用していただくという形になりますので、ご理解ください。

【大塚会長】

ご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

【高橋（正）委員】

献血の呼びかけを何十年もやってきた中で、献血に来てくれる方のほとんどがリピーターの方と気づきました。そのリピーターはなぜリピーターになってくださったのか、お調べになったことはありますか。

【赤十字血液センター】

学生のときにご協力いただいた方は社会人になってからも献血をしていただける傾向があり、特に高校や大学などで献血を進めています。

また、先ほどもあったように若い方向けのセミナーを開催し、小学校や中学校において、献血の必要性を訴えて、献血可能な年齢になってから献血にご協力いただくなどしてリピーターになって頂けるよう繋げていければと考えております。

【高橋（正）委員】

学生で献血をした方が、リピーターになる傾向があるということがわかりました。私も3人の子どもがいるんですけど、1人は18歳からずっと献血を続けており、理由を聞いたら、半分は自分のため、半分は人のためという答えが返ってきました。それで気が付いたのですが、献血をすれば自分のためにもなるという、アピールの仕方も必要ではないかと思いました。

【大塚会長】

他にご質問はございますか。

【若林委員】

市川市の採血者数は、県内で上位に入りますが、達成率の順位は低くなっています。達成率が2以上になっている市町村と市川市との違いについて疑問に思いました。

【赤十字血液センター】

ショッピングモール会場での実施回数や献血ルーム設置の有無などが要因として考えられますが、市町村の献血目標は各市町村の献血可能人口から按分しているため、このような割合になっております。

【大塚会長】

議題は以上となります。全体について、委員の皆様よりご意見などあれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

【石井委員】

以前、性感染症対策の啓発運動として中高生がチラシなどを配っていたことがあり、その子たちが関心を持ってくれたこともあったので、中高生が献血しましょう！というようなチラシやグッズなどを配るなどということはできないでしょうか。

【赤十字血液センター】

ボランティアとして配布をお手伝いいただくということであれば、こちらは歓迎ですので、よろしく願います。

【青野副会長】

行徳ライオンズクラブで今、行徳駅前献血を行っておりますが、その時、ボーイスカウトの子供達と、一緒に献血の呼びかけをすると、献血してくれる人も多くなるし、その時にその赤十字の方々がその献血について、ボーイスカウトの子たちに教えてくれるので、お互いにとってすごく意味があると思っております。

【大塚会長】

ありがとうございました。

他にないので、これをもって令和6年度市川市献血推進協議会を閉会いたします。

本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございました。

【閉会】